神戸植物学ことはじめ

白岩　卓巳

神戸には日本の文化を担った人が数々いた。私はかねてから，日本の植物学を陰から支えた人が２人，神戸にいたこと，しかし，その２人の偉大な業績についてはほとんど知られていないことを残念に思っていた。いつか機会をみつけ，資料などを掘り起こし記録に留めておきたいと考えていたが，ようやく一応まとめることができた。その２人の人物とは池長孟（いけなが　はじめ）と岡崎忠雄（おかざき　ただお）である。

・池長孟の場合

池長孟は，日本の生んだ世界的な植物学者牧野富太郎が貧困で困り果てていたのを救い，世話をして育てた恩人である。彼は神戸に池長植物研究所をつくり，牧野富太郎を神戸に呼ぶ一方，南蛮美術品を収集した。

・岡崎忠雄の場合

岡崎忠雄は，フランス人宣教師フォーリーが日本滞在の42年間に採集し集めた標本が，すべて日本から出て行くのを防ぎ，その一式を買い取り京都大学に寄付した。それは京都大学標本庫の基礎標本となるだけでなく，日本植物の基礎データとなっているのである。

池長孟と岡崎忠雄は共に神戸で住み，働き，共通して大正のほぼ同時代に義侠的な仲介的行動をとった人たちである。２人にとっては自分たちのとった行動がどれだけの価値をもっていたのか強く意識してはいなかったかもしれないが，今の世にどれほど大きな役割を果たしているか計り知れないものがある。前者の記録は神戸市教育委員会発刊の『教育こうべ』(1993年303号～1994年307号）に，その合冊したものを三宮プラザ皓祥館書店においている。後者は植物分類地理学会発行の『植物分類，地理』1995年（Vol.46）に掲載されているので参照願いたい。　　（しらいわ　たくみ：常任理事）

発足の頃

稲葉　明彦

兵庫県生物学会が創立50周年を迎えるという。敗戦直後の草創期に何かとお手伝いはしたものの，昭和23年(1948年)から広島文理大へ転じ，その後は『兵庫生物』3巻4号に短文を寄せさせて頂いた位で，いわゆる県外会員である。だから私の思い出は真っすぐに50年前に戻る。

兵庫県には昭和５年（1930年）発足した兵庫県博物学会（阿部良平会長）があり，会誌は菊版で地元の研究調査のみならず啓蒙的記事も多く，随分参考にさせていただいたが，20号で終刊となり，昭和16年（1941年）戦時統制によって兵庫県中等教育博物学会（山鳥吉五郎会長）と合併することになった。しかし戦局の逼迫と共にそのうち休刊となってしまった。

昭和20年秋復員後，前任校（京都師範，現京都教育大）へ高砂から通勤（正に痛勤であったが）していたが，縁あって翌春母校姫路中学へ転じ，若さを武器に，塗りつぶしだらけの教科書は使わず，自己流の生物（含地学）教育に情熱を傾けていた。生物同好会を作ったり，教員組合で熱弁をふるったお蔭で，青年部長にされたり，姫中教員の２年間は私にとって青春時代の最後でもあり強く心に残っている。

生物学会の復活を望む声は早くからあったが，戦災の大きかった都市部ではなかなかまとまらなかった。そのうち豊岡の雄山本茂信先生が但馬生物学会の旗揚げをされ（昭和22年１月），瀬戸内側は出遅れた。しかしこれが契機となって県下一円を対象とする生物学会の設立が具体化し，５月には明石の紅谷進二先生を中心に設立準備委員会ができ，私も先輩の先生方に加わって，会長は医大予科の森為三先生に頼もうとか，支部を多く作って小回りのきく活発な活動をとか，規約も作らなければとか，役員を如何するとか，何度も学校だけでなく室井先生宅や時には紅谷先生宅に集まって話し合った。規約原案作りでは室井綽，古林一実，山本茂信の３先生と稲葉が集まって，「簡明平易を旨として」作成した。若年で使われ易かったのか，授業以外は設立のお膳立てに明け暮れたものである。ともかく６月６日，明石小学校をお借りして創立総会を開催。森会長，紅谷理事長，理事，幹事など役員も決まり，兵庫県生物学会として発足できた。それからの１年は，各地支部の結成，支部毎の行事の支援など，性急すぎはしないかとも思えるスピードで生物学会はその基礎を固め，翌23年春には待望の『兵庫生物』第１号の発刊に漕ぎつけたのであった。ところが私がこの春急遽広島への転勤を決めたため，編集事務を室井綽，古川博二などの先生方にお願いする破目になり，相すまぬ事になった。

その年の夏，文理大臨海の瀧巌先生のお供をして洲本臨海実習のお手伝いにいった。参加者も多く，柳学園の山西元先生はじめ多くの方々にお世話いただいた。採集や実習内容については殆ど記憶していないが，宿舎での蚤の大挙来襲には吃驚したことを未だに憶えている。その後，昭和41年（1966年）学会創立20周年に当り紅谷会長名で学会から表彰状を戴いた。広島へ来てからは何のお役にも立っていないのにと大変恐縮した。

生物学会の草創時代，多くの先輩諸先生のお世話になった。既に挙げた方々の他，井上完爾，大浦茂樹，川崎正悦，陸井初治，倉橋一三，竹中茂，槌賀安平先生などの大先輩もご健在であった。若いところでは本部の渋谷久雄，当津隆，龍野の建部恵潤さんなどを思いだす。手元

に最初に作った22年末現在の会員名簿がある。ザラ紙にガリ版，Ｂ６横刷りの粗末なもの。我が家で亡父に手伝って貰って作ったのがこの間のように思われるのは，そんな年になった所為かもしれない。昭和60年(1985年)，広島大学を定年退職後10年ほど女子短大に勤めたが今は閑職（非常勤講師)。好きな貝類研究と日本貝類学会副会長，それに日本学術会議の委員やら環境庁委嘱の仕事やらで結構退屈もせず至極元気に過ごしている。

（いなば　あきひこ）

但馬生物学会の思い出

山本　茂信

豊岡中学校の山本茂信は，同僚の細田一夫氏と，県立豊岡高等女学校の土橋忠重氏や，県立八鹿農蚕学校の小西知巳氏と，清水正夫氏他５名の生物科教員と豊中達徳会館にて，学会発足の相談と研究会を行い，鳥取高農・廣江勇博士から「カビについて」の講義を聴き，但馬生物学会を設立し，会則決定，記念撮影をした。この学会設立は，昭和22年（1947年）１月27日であった。

ついで，同年３月２日，八鹿農蚕において，第２回研究会を開き，京大理学部の藤井祐一博士の「遺伝と進化の問題」を論じ，県下一円に呼び掛け学会創立の議起こり，山本が連絡員と決定した。山本は，明石女子商業の紅谷進二先生と協議することになった。同年５月１日，香住水産学校で第３回研究会を開き，国立水産指導所香住分場長・野口栄三郎氏の「イルカの生態」につき講演を聴き，兵庫県生物学会の発足の促進について話し合った。同年５月17日，明石女子商業学校において，兵庫県生物学会準備委員会が開催され，総会の準備，並びに規約などについて話し合った。同年５月21日，兵庫県生物学会準備委員会は，朝日中学校において開催された。同年６月６日，明石小学校で総会を行い，学会の規約を決定した。また，兵庫県立農科大学教授・森為三博士を推戴，役員を任命し，同年の行事予定の協議を行った。また，会長の「科学振興について」の講演があり，盛会裡に創立総会が実施された。誠にめでたいことであった。以来，日本の生物学会の中核として活躍を続けている。

但馬生物学会は，会員数が昭和27年８月10日付けの会員名簿によれば総員９名であったが，生徒，児童とともに，但馬山岳，河川並びに但馬海岸で採集，実験，研究会などを実施し，八鹿町妙見山には「日光院資料館」を作り，昆虫標本，植物標本などを集めている。コウノトリの研究もはじめ，但馬の生物誌を発刊するようにした。

昭和20年代に，東大，東京高師，京大，鳥取農高，九大農学部，広島高師，広島文理科大などの諸先生方に大変ご指導いただいた。特に九大・江崎悌三先生，東大・本田正次先生，韓国ソウルの京城大学予科の森為三先生，竹中要先生に終戦前後に大変ご指導いただいたことをここに重ねて深謝する。以上の諸先生の人脈により，すべてが成功裡に運び感謝，感激している次第である。

（平成７年11月23日勤労感謝の日に記す）敬称略。

（やまもと　しげのぶ）

栄光!!『兵庫生物』50周年

山本　茂信

広島原爆の朝，広島県向原高女（現向原高校）より豊中（現豊岡高校）に赴任し，「兵庫県生物学会」を起こすことになった。

浜坂から豊岡まで通勤し，昭和43年３月まで豊岡高校、49年３月まで村岡高校で生物学を担当し，「兵庫県生物学会」の方々と共に生物学の数々の発展に尽力した。(但馬妙見山日光院に資料館も設置した。)

最初「但馬生物学会（但馬支部となる)」の方と鳥取，京都，篠山，神戸の大学の方々と研修を始め，次いで明石市立女子商業学校長紅谷進二先生などと計り，兵庫県立農科大学教授森為三先生を会長に願い，昭和22年から「兵庫県生物学会」ができ，海，山，川の自然に恵まれた私たちは充分な研修を実施でき有り難いことであった。

見事な兵庫県生物学会編集『兵庫生物』第１号が昭和23年３月発刊され現在に至っている。各地において採集会や臨海実習など実施され，雑誌に業績が発表されている。

昭和38年７月，山陰海岸国立公園が指定され，昭和46年，海中公園が指定，豊岡に「コウノトリ」の繁殖場ができ，現在は「世界自然遺産」の候補にするなどすばらしい発展を遂げている。

日本生物教育学会の総会においても東京・京都・神戸と各地で行われ，「兵庫県生物学会」と密接に連絡をとりながら進められた。明石，神戸，姫路などに出張し，生物学会の方々と共に協議して生物学会の発展に参加できたことを有り難く思っている。

現在の学会長平畑政幸先生とは昭和44年８月扇ノ山野外観察を実施し，温泉町畑ヶ平高原のブナ林の中を歩き当時の三浦佳文会長はじめ大勢の方々のお顔が浮かんでくる。

学会は昭和46年『兵庫県植物目録』を出版し，業績を立派に残している。現在ふりかえって数々の思い出が浮かびなつかしい極みである。

兵庫県生物学会の前に兵庫県博物学会が昭和６年１月「会誌」を創刊し，兵庫県中等教育博物学会が昭和13年６月「兵庫県中等教育博物学雑誌」を創刊している。当時は山鳥吉五郎先生が牧野富太郎先生と県下の山や但馬